

外国語学部での夜間授業における月の撮影を利用したBYODによるアクティブラーニング

○福江 翼¹ (1.神戸市外国語大学)

神戸市外国語大学では、2026年度よりBYOD（Bring Your Own Device）に移行された。2026年度新入学生は携帯可能なノートパソコンが必要となり、BYODを前提とした授業の組み立てが可能となった。そこで近年のアクティブラーニングの動向も考慮して、1年生の初学者も周りと相談しながら参加しやすいようなBYODによるグループワークを検討することとした。今回はなるべく特殊な道具は用いずに、各自の手持ちの道具で可能な内容をまずは検討することとした。また、外国語学部の1年生も受講が可能な夜間の授業を想定している。今回の天体としては形状も見えるかもしれない月の撮影を考えることとした。グループワークの流れとして、授業中に各学生がデジタルカメラにより月を撮影し、各自のノートパソコンに写真をコピーして、ファイル操作によって写真のバックアップを作成してから、画像編集ソフトにより月付近のみを抽出し、その画像をパワーポイントに取り込み、説明文を加えてレイアウトを整え、その写真に何が写っているのかについて各グループで考察してもらい、参考文献の記載を確認した上で、Teamsの画面共有により各自のノートパソコンへパワーポイントのスライドショーを見せながら発表してもらう、という流れを基本として検討した。自分のいくつかのカメラによる月の写真は写り方が異なったが、参加者のカメラもそれぞれ異なるだろうので、各自の写真の比較による考察を行うこともグループワークのオプションとして考えられる。